



麻布幼稚園だより

令和5年1月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

明けましておめでとうございます。本年も麻布学校運営協議会（麻布コミュニティ・スクール）の幼稚園として、保護者・地域の皆様、近隣の小中学校と連携・協力をし、子供たちのため、教職員一同力を合わせて教育活動を進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



1年の始まりですが、1月は、今年度の締めくくりの3学期の始まりでもあります。幼稚園として今年度の取組を振り返り、次年度の教育課程につなげていきます。昨年末には学校評価へのご協力をありがとうございました。結果については今年度中にお示しいたします。

ここまで、子供たち一人ひとりに大きな成長が見られました。行事の後の感想や学校評価の中に記載してくださった内容から、保護者の皆様がお子さんの育ちをしっかりと見取られていることを感じます。各学年では、改めて子供たちの育ちを振り返り、保護者の皆様とお子さんの成長を共有し一人ひとりの自信を高め、進級・進学へとつなげていきたいと思ひます

今年度は、「生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにする」を重点の一つとして進めてきました。

文部科学省が示している「幼稚園教育要領」に領域「健康」があります。

心身の健康に関する領域「健康」

[健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。]

- (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け見通しをもって行動する。

「早寝、早起き、朝ごはん、朝ウンチ」は、これまでもお伝えをしてきた通り、幼児期から身に付けさせたい習慣です。今年度、戸外遊びや徒歩遠足を積極的に取り入れてきたことは、幼児が楽しさや充実感・満足感を味わい、自ら体を動かそうとする態度につながっています。

このように望ましい習慣、進んで体を動かそうとする態度や意欲を育てることは、身体諸機能の発達を促す上で重要です。また、「明るく伸び伸び」ということは、単に行動や言葉などの表面的な活発さを意味するものだけではありません。幼児が幼稚園生活の中で解放感を感じつつ、自分なり思いや考えをもちながら主体的に人・物・ことに関わる内面の充実も意味し、自己充実に深くかかわります。

幼児は信頼する大人に支えられながら、生活行動を自分で行うことの必要性や人や物に対する態度を身に付けていきます。物事を最後まで行う体験は、自分の力でやろうとする気持ち、諦めずにやり遂げることで達成感につながり、自信をもって行動する力となります。

「健康」の視点から見られるこれらの育ちは、これからもぐんぐんと育っていく子供たちの土台となっていきます。

教育日数の少ない3学期。幼児一人ひとりが伸びようとする力を支える大人であることを振り返りつつ、日々を大切に過ごしていきたいと思ひます。

